

# 自・民現職「一日の長」



当選が確定となり、選挙事務所でパン  
サイ三唱する末松信介氏（中央）

参院選  
2010

政権交代後初の国政選挙で、民主党政権への評価が問われた参院選は1日に投票、即日開票され、兵庫選挙区では自民の末松信介氏（54）と民主の水岡俊一氏（54）の現職2人が再選を果たした。6党から7人が立候補する激戦となり、新党の若手候補らが激しく追い上げたが、知名度や支持組織を固めた現職が、一日の長で逃げ切った。投票率は前回（平成19年7月）より2.20ポイント低い54.41%だった。

## 末松氏歓喜 トップ当選

議席死守を掲げた自民現職、自民党には明日がない。未松信介氏（54）は自民と「思った」とようやく安堵の表情を固めてのトップ当選。

午後8時過ぎには早々と「当選確実」の報が流れ、未松氏は午後9時前から支持者とパンサイ三唱。「2番でもいいから、とにかく勝ちたかった。もし負ければ、長く政権与党だった党への

批判も依然強かったが、輿論の支持基盤を頼みに後援会の懇親旅行や宴席も回り、街頭演説を重ねた。末松氏は17日間の選挙期間を「2カ月ぐらいに感じた」と振り返った。

花束を受け取った末松氏は事務所に着き、感謝、感謝、感謝と「本当に感謝、感謝、感謝です」と当選の感激をのびのびと語り、この思いを忘れず、国民はまた自民党に全幅の信頼を置いていないが、つくり取り組んでい